

## 衝動的な行動をとる

## 児童に対する指導の工夫

- 本人へのかかわりと周囲の環境を整える活動をとおして -

特別研修員 飯塚 俊英（富岡市立西小学校）

### 《研究の概要》

本事例研究は衝動的な行動をとる児童に対して、本人へのかかわりやその環境の改善を図ることにより、行動の変容をねらったものである。本人に対してはトークンエコノミーを取り入れることで、努力していこうとする態度がみられ、心の安定を図ることができた。学級の児童に対してはスキルトレーニングを行うことで、友達との適切な接し方を考えさせることができた。また、関係者との連携を密にしたことも環境を整える上で重要であった。

#### 【指導の方針】

- 1 児童に対して
  - (1) 思いを受け入れ、気持ちの安定を図る。
  - (2) 良さを認め、自己肯定感を育てる。
  - (3) 相手の立場を理解できるようにする。
- 2 家庭に対して
  - (1) 連携を密にした取り組みを行う。
  - (2) 養育態度の変容を図る。
- 3 学級や友人に対して
  - (1) その児童の行動を受け止め、応援してあげられるよう指導する。
  - (2) 友達の気持ちを推し量れるよう相互に理解を深める。
- 4 指導助手や関係機関との連携
  - (1) 担任と指導助手との連携を図る。
  - (2) 関係機関との連携を図る。

#### 【具体的な手だて】

「ごほうびノート」(トークンエコノミー)を用いて、1時間単位でその児童自身の目標を明確にし、努力を認めるようにする。ソーシャルスキルトレーニングやアサーション・グループワークなどを行って、より良い友人との接し方を理解させる。

本人  
学級

#### 【まとめ】

以上のように取り組んできた結果、衝動的な行動をとることが少なくなった。その理由として、本人の好きな読書をさせて心の安定を図ったこと、トークンエコノミーを取り入れ、目標を達成する喜びを味わい自信が持てるようになったことがあげられる。また、学級に対して、スキルトレーニングを行ったことで、その児童の行動や気持ちを理解してくれる友達が増えてきた。同時に家庭との連携も密にしてきたので、養育態度の変容をみることができた。